

20070610

厚生労働科学研究費補助金
基礎研究成果の臨床応用推進研究事業

癌治療ペプチドワクチン及びペプチド抗体開発:遺伝子同定から臨床試験まで
に関する研究

平成15年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 伊東 恭悟

平成16年(2004)年 3 月

目 次

I. 総括研究報告

癌治療ペプチドワクチン及びペプチド抗体開発:

遺伝子同定から臨床試験までに関する研究 1-22
伊東恭悟

II. 分担研究報告

1. 膵癌ペプチドワクチンの臨床研究に関する研究 23-26
岡 正朗
2. 婦人科癌ペプチドワクチンの臨床研究に関する研究 27-28
嘉村敏治
3. 遺伝子、ペプチド及びペプチド抗体基礎研究に関する研究 29-32
七條茂樹
4. 胃癌と大腸癌に対するペプチドワクチンの臨床研究に関する研究 33-40
藤堂 省
5. 再燃前立腺癌ペプチドワクチンの臨床研究に関する研究 41-44
野口正典
6. 高度進行癌に対するペプチドワクチンの臨床研究に関する研究 45-50
山名秀明

III. 研究成果の刊行に関する一覧表 51-52

IV. 研究成果の刊行物・別冊

癌治療ペプチドワクチン及びペプチド抗体開発:遺伝子同定から臨床試験まで

主任研究者 伊東 恭悟 久留米大学医学部教授

研究要旨:(目的)遺伝子同定から臨床試験実施までの一連の探索的臨床研究を通じて、上皮性癌に対する治療用ペプチドワクチン及びペプチド抗体を開発する。(結果)今年度の基礎研究結果として、新規ペプチド同定は、32種類をワクチン候補として同定した(知的所有権 15件申請済み)。現在、第Ⅰ相/早期第Ⅱ相臨床試験にGMPレベルのペプチドを使用中である。一方、HLA-A24と-A2以外HLA-クラスⅠアレルに拘束されるヒト癌拒絶抗原遺伝子とそのペプチド分子の同定も継続して実施中であり、平成15年度は多数のHLA-A26、-A31、-B46及び-B52拘束性遺伝子群とペプチドを同定した。臨床研究結果で特筆すべき事項は、テーラーメイド型レジメを採用した再燃前立腺癌にて良好な成績が得られたことであり、医薬品承認が得られるレベルに到達した。そのため、第Ⅰ相治験申請を現在厚生省に提出中である。(考察)基礎研究にてA3スーパーファミリーに属するペプチド分子が多数同定されたことにより、従来成果であるHLA-A24及び-A2拘束性ペプチドワクチンでは日本人の75%、また世界では60%前後の癌患者に限定されていたペプチドワクチンがほぼ100%の症例まで適応拡大できる可能性が示された。臨床研究にて治験申請可能な癌種(ホルモン不応性再燃前立腺癌)が特定され、医薬品化の可能性が高まった。探索的臨床研究成果の医薬品化は当該厚生研究補助事業の中核となる目的であるため、大きく評価される。平成16年度中に治験開始の承認を得て、平成20年度の承認を目的とするとともに、前立腺癌以外の癌種での治験開始にむけての臨床研究の推進が肝要となる。

● 分担研究者

岡 正朗 山口大学医学部教授
嘉村 敏治 久留米大学医学部教授
七條 茂樹 久留米大学医学部助教授
藤堂 省 北海道大学医学部教授
野口 正典 久留米大学医学部助教授
山名 秀明 久留米大学医学部教授

A. 研究目的

遺伝子同定から臨床試験実施までの一連の探索的臨床研究を通じて、上皮性癌に対する治療用ペプチドワクチン及びペプチド抗体を開発する。基礎研究ではHLA-クラスⅠA及びBアレルに拘束される拒絶抗原遺伝子を新規に50以上、ペプチドでは100以上同定し、さらに抗ペプチド抗体の抗腫瘍性の分子機構解明や単クローン抗体による癌治療動物モデルなどを通して上皮性癌拒絶の分子基盤の全体像を明らかにする。また、抗ペプチド抗体の前臨床試験を開始する。一方、臨床研究では本研究期間内にHLA-A24及び-A2癌ペプチドワクチン第Ⅰ相/早期第Ⅱ相臨床試験を終了させ、企業主導型の医薬品化を目指した臨床試験へ移行させる。この場合、再燃前立腺癌、スキルス胃癌、子宮頸癌を優先させる。

B. 研究方法

基礎研究(伊東、七條研究者):①HLA-クラスⅠAアレル(A24、A2、A26、A31)拘束性CD8⁺CTL株及

びHLA-Bアレル(B46、B52)拘束性CD8⁺CTL株を癌局所リンパ球より樹立し、それらにより認識される抗原遺伝子とペプチドを同定し、癌ペプチドワクチン分子を決定する。これによりペプチドワクチン候補の拡大と充実をはかる。②抗ペプチド抗体(IgG)産生機序や抗腫瘍性での基礎研究、さらにはSART3、Lck、PSMペプチドに対する単クローン抗体をまずマウスにて作製し、それらを用いてペプチド抗体の抗腫瘍作用誘導の分子レベル及び動物実験での解析を実施する。

臨床研究:①再燃前立腺癌(伊東、野口研究者):新規開発ペプチドを追加した早期第Ⅱ相臨床試験を開始する。②スキルス胃癌及び子宮頸癌(藤堂、嘉村研究者):早期第Ⅱ相臨床試験を実施する。③肺癌(山名研究者):第Ⅰ相/早期第Ⅱ相臨床試験を実施する。④大腸癌(山名研究者):第Ⅰ相/早期第Ⅱ相臨床試験を実施する。⑤肝臓癌(山名研究者):第Ⅰ相臨床試験を実施する。⑥膵癌(岡研究者):第Ⅰ相/早期第Ⅱ相臨床試験を実施する。

(倫理面への配慮)

1) 本研究は「ヒトのクローンに関する研究等」に該当するおそれは全くないと判断される。2) in vitro にて癌特異的キラーT細胞を誘導することを目的として採血する場合は、本研究分担者ら及び他の研究協力医が直接患者に充分時間をとってその目的を説明し、理解と同意の得られた場合に限って15~30ml採血し

て研究に供している。3) 臨床試験についての配慮点: GMPグレードのペプチドを米国NCI外科における臨床試験の基準にのっとり米国MPS社へ依頼して作成し(Nature Med.4:321, 1998)無菌試験及びシーケンスを本研究室にて再確認した後、本学内での審査委員会での審査を経て臨床試験を実施する。4) 臨床試験実施においては、本研究の分担者(医師)が専任の臨床研究看護師とともに被験者から文書での自由意志による十分な説明を受けた上での同意(インフォームド・コンセント)を得て常時実施する。さらに、担当医師や看護師を中心として被験者及びその家族の疑問に答え不安に対応するためのカウンセリングを常時行う体制を可及的にひいている。

C. 研究結果

平成15年度基礎研究結果:①HLA-A24 拘束性新規肺癌遺伝子とペプチドを同定した(Yamada et al., Can.Res., 2003)。②ワクチン候補ペプチドをコードする新規ペプチドを更に32種類同定し、全体で66種類にて臨床試験可能とした。腫瘍マーカー由来(HER2/neu, EGFR, PSA, PAP, PSMA, PSCN, CEA, PTHrp, EZH2)である。③HLA-A3 スーパーファミリーに拘束されるペプチドを5種類同定した(Takedatsu et al., Clin Can Res., 2004)。その結果、ほぼ全例へのペプチドワクチンを可能となった(HLA多型性は-A24, -A2及び-A3ファミリーでほぼ100%カバー可能)。④HLA-B46, -B52, -B60 拘束性遺伝子及びペプチドを同定した(Azuma et.al, Can Res., 2003)。⑤ペプチドに対するCD4陽性ヘルパーT細胞反応を解明した(Harada et al. J. Immunol., 2004)。⑥HLA-A31 拘束性新規遺伝子とペプチドを同定した(Sasada et al. Can Res., 2004)。⑦ペプチドに対する単クローン抗体(SART3₁₀₉, SART3₃₁₅)産生クローンを樹立した。以上の研究成果は、英文査読誌(31編)に発表済みもしくは予定であり、知的所有権は15件を申請した。

平成15年度臨床試験結果:①テラーメイドペプチドワクチン前向き試験(第I相/早期第II相臨床試験)を実施し、ペプチドワクチンの臨床効果における優越性を立証した。②再燃前立腺癌に対するペプチドワクチンと低用量エストラムスチン併用療法において医薬品承認を目的とした第I相試験に移行可能な臨床成果が得られた。③悪性脳腫瘍に対するペプチドワクチンでPR例を含む臨床効果が得られた。④子宮頸癌に対するペプチドワクチンでの臨床効果が向上した。第I相試験可能なレベルに達したと判断される。⑤一方、有効ペプチドを非テラーメイド型レジメで投与したスキルス胃癌と子宮頸癌症例では臨床効果の得られなかった(PD0, SD1, PD12例)。

D. 考察

基礎研究:癌免疫の基礎研究成果を癌治療に応用する

ためには、臨床試験を含む探索的臨床研究、即ちTRANSRATINAL STUDYが不可欠である。そこで私たちは上述の研究補助金を受け探索的臨床研究を開始した。本年度は、新規の抗原ペプチドを多数同定するとともに、HLA-A24や-A2以外の症例へのペプチドワクチン開発を目指してA3スーパーファミリー(A3, A11, A31, A33)拘束性ペプチドを多数同定した。基礎研究にてA3スーパーファミリーに属するペプチド分子が多数同定されたことにより、従来の成果であるHLA-A24及び-A2拘束性ペプチドワクチンでは日本人の75%、また世界では60%前後の癌患者に限定されていたペプチドワクチンがほぼ100%の症例まで適応拡大できる可能性が示された。

臨床研究:平成14年～15年度は、平成13年度までにPRの認められた癌種(大腸癌、子宮頸癌、再燃前立腺癌、スキルス胃癌、悪性脳腫瘍、胃癌)を中心に臨床効果を目的とした早期第II相臨床試験を実施した。その結果、再燃前立腺癌症例ではテラーメイド選択に新規に追加した5種類のペプチド効果が主な原因と考えられる好成績、即ち第I相臨床試験に比してより良好な臨床効果が得られた。また、テラーメイド選択にはキラーT細胞測定単独よりもペプチド抗体測定を追加しての測定がより有効であることが示唆された。今後の大規模な臨床試験のモニタリング法としてのペプチド抗体測定の有用性が明らかとなった。以上の成果に立脚して厚生労働省に治験申請中である。一方、ペプチドワクチンの有効性を立証する前向き試験として実施したスキルス胃癌、子宮頸癌に対する非テラーメイド型ワクチン投与の臨床試験においては、投与前末梢血リンパ球中の投与予定ペプチドに対するペプチド特異的キラーT細胞数が多いほど予後良好という成績が得られた。ペプチドに対する細胞性免疫の増強は非テラーメイド型投与より強力であった。これらより、治療目的のワクチンとしてテラーメイドペプチドワクチンは非テラーメイド型のそれよりも優れていることが明らかとなった。臨床効果が全く得られなかった理由については、まず投与した4種類のペプチドのうち1～2種類のペプチドに対してのみ細胞性免疫が投与前末梢T細胞中に存在するため、抗腫瘍作用誘導が不十分であったことが挙げられる。次に、投与ペプチドに対する1次免疫誘導が既に存在する2次免疫を抑制した可能性が示唆された。いずれにしても子宮頸癌とスキルス胃癌では、この非テラーメイド型レジメによる臨床試験は中断し、新規のペプチドを採用してのテラーメイド型レジメを開始した。その結果、中間解析であるが生命予後延長などの臨床効果が得られつつある。更にスキルス胃癌においては低容量のTS-1という5-FU系の抗癌剤を併用した場合のみ、極めて高い臨床効果が得られつつある。また有害事象は局所反応主体であり、ペプチドの免疫反応も大部分(80～50%)の症例にて投与ペプ

チドの殆どに対して誘導された。以上の成績から、平成16年度には新規のペプチドを増加し(17種類→24種類)、更に高い臨床効果かつ長い持続期間の成績を目標として臨床研究を継続して、医薬品申請可能なレベルに到達させることを主目的に高質な臨床試験を実施する。この場合、前立腺癌、子宮頸癌、悪性脳腫瘍など、消化器癌以外の癌種を優先させて、他省庁からの研究補助事業との重複を可及的に回避する。

E. 結論

基礎研究:①HLA-A24 及び-A2 用のペプチドを更に32種類同定し、全体で66種類にて臨床試験可能として、臨床研究へ提供した。それらは主として腫瘍マーカー由来(HER2/neu、EGFR、PSA、PAP、PSMA、PSCN、CEA、PTHrp、EZH2)である。②HLA-A3スーパーファミリーに拘束されるペプチドを5種類同定した結果、ほぼ全例へのペプチドワクチンが可能となった(HLA多型性は-A24、-A2 及び-A3ファミリーでほぼ100%カバー可能)。③HLA-B46、-B52、-B60拘束性遺伝子およびペプチドを同定すると共に、ペプチドに対するCD4陽性ヘルパーT細胞反応を解明した。

臨床試験結果:①ペプチドワクチン前向き試験(第I相/早期第II相臨床試験)を実施し、その臨床効果における優越性を立証した。②再燃前立腺癌に対するペプチドワクチンと低用量エストラムスチン併用療法において医薬品承認を目的とした第I相試験に移行可能な臨床成果が得られた。③悪性脳腫瘍に対するペプチドワクチンでPR例を含む臨床効果が得られた。④子宮頸癌に対するペプチドワクチンでの臨床効果が向上した第I相試験可能なレベルに達したと判断される。

F. 健康危険情報

当該研究での臨床試験において、健康危険情報における事項はありません。

G. 研究発表

1. 論文発表

1-1. 論文発表 (英文査読誌掲載論文)

【伊東恭悟 主任研究者】

1. Yamada A, Kawano K, Koga M, Takamori S, Nakagawa M and Itoh K. Gene and peptide analyses of newly defined lung cancer rejection antigens recognized by HLA-A2402-restricted tumor-specific cytotoxic T lymphocytes. *Cancer Res.*, 63(11): 2829-2835, 2003.

2. Noguchi M, Kobayashi K, Suetsugu N, Tomiyasu K, Suekane S, Yamada A, Itoh K and Noda S. Induction Of Cellular And Humoral Immune Responses To Tumor Cells And Peptides In HLA-A24 Positive

Hormone-Refractory Prostate Cancer Patients By Peptide Vaccination. *Prostate*, 57(1): 80-92, 2003.

3. Harada M, Kobayashi K, Matsueda S, Nakagawa M, Noguchi M and Itoh K. Prostate-specific antigen-derived epitopes capable of inducing cellular and humoral responses in HLA-A24+ prostate cancer patients. *Prostate*, 57(2): 152-159, 2003.

4. Kawamoto N, Yamada A, Ohkouchi S, Maeda T, Tanaka S, Hashimoto T, Saijo Y, Saijo S, Nukiwa T, Shichijo S, Aizawa H, Itoh K, IgG reactive to CTL-directed epitopes of self-antigens is enter lacking or unbalanced in atopic dermatitis patients. *Tissue Antigen*, 61(5): 352-361, 2003.

5. Tanaka S, Harada M, Mine T, Noguchi M, Gohara R, Azuma K, Tamura M, Yamada A, Morinaga A, Nishikori M, Katagiri K, Itoh K, Yamana H and Hashimoto T. Peptide vaccination for patients with melanoma and other types of cancer based on pre-existing peptide-specific cytotoxic T-lymphocyte precursors in the periphery. *J Immunother.* 26(4): 357-366, 2003.

6. Mine T, Gouhara R, Hida N, Imai N, Azuma K, Rikimaru T, Katagiri K, Nishikori M, Sukehiro A, Nakagawa M, Yamada A, Aizawa H, Shirouzu K, Itoh K and Yamana H. Immunological evaluation of CTL precursor-oriented vaccines for advanced lung cancer patients. *Cancer Sci.*, 94(6): 548-556. 2003.

7. Kobayashi K, Noguchi M, Itoh K and Harada M. Identification of a prostate-specific membrane antigen-derived peptide capable of eliciting both cellular and humoral immune responses in HLA-A24+ prostate cancer patients. *Cancer Sci.*, 94(7): 622-627, 2003.

8. Shichijo S, Azuma K, Komatsu N, Kawamoto N, Takedatsu H, Shomura H, Sawamizu H, Maeda Y, Ito M and Itoh K. Identification of two novel tumor-associated antigens recognized by HLA-B46-restricted cytotoxic T lymphocytes. *Int. J. Mol. Med.*, 12(6): 895-902, 2003.

9. Azuma K, Shichijo S, Takedatsu H, Komatsu N, Sawamizu H and Itoh K. Heat shock cognate protein 70 encodes antigenic epitopes recognised by HLA-B4601-restricted cytotoxic T lymphocytes from cancer patients. *Br J Cancer*, 89(6): 1079-1085, 2003.

10. Ohkouchi S, Kawamoto N, Koga M, Sakanashi F, Shichijo S, Saijo Y, Nukiwa T, Itoh K and Yamada A. Identification of a CTL-directed epitope encoded by an intron of the putative tumor suppressor gene Testin of the common fragile site 7G region: a peptide vaccine candidate for HLA-B52+ and HLA-62+ cancer patients. *Eur J Immunol.*, 33(11): 2964-2973, 2003.
11. Sato Y, Shomura H, Maeda Y, Mine T, Une Y, Akasaka Y, Kondo M, Takahashi S, Shinohara T, Katagiri K, Sato S, Okada S, Matsui K, Yamada A, Yamana H, Itoh K and Todo S. Immunological evaluation of peptide vaccination for patients with gastric cancer based on pre-existing cellular response to peptide. *Cancer Sci.*, 94(9): 802-808, 2003.
12. Harada M, Noguchi M, Itoh K. Target molecules in specific immunotherapy against prostate cancer. *Int J Clin Oncol.*, 8(4):193-199 (review), 2003.
13. Matsueda S, Kobayashi K, Nonaka Y, Noguchi M, Itoh K and Harada M, Identification of new prostate stem cell antigen-derived peptides immunogenic in HLA-A2+ patients with hormone-refractory prostate cancer. *Cancer Immunol Immunother*, 2003 Nov 21.
14. Kumamaru W, Nakamura S, Kadana T, Yamada A, Kawamura E, Sasaki M, Ohyama Y, Toyoshima T, Hayashida J, Itoh K and Shirasuna K. T cell receptor V α gene usage by T cells reactive with the tumor-rejection antigen SART-1 in oral squamous cell carcinoma. *Int J Cancer*, 108(5): 686-695, 2004.
15. Harada M, Gohara R, Oda T, Iwamoto Y and Itoh K. *In vivo* evidence that peptide vaccination can induce HLA-DR-restricted CD4+ T cells reactive to a class I tumor peptide. *J Immunol.*, 172: 2659-2667, 2004.
16. Tsuda N, Mochizuki K, Harada M, Sukehiro A, Kawano K, Yamada A, Ushijima K, Sugiyama T, Nishida, T, Yamana H, Itoh K and Kamura T. Vaccination with pre-designated or evidence-based peptides for patients with recurrent gynecologic cancers. *J Immunother*, 27(1): 60-72, 2004.
17. Noguchi M, Itoh K, Suekane S, Yao A, Suetsugu N, Katagiri K, Yamada A, Yamana H and Noda S. Phase I trial of patient-oriented vaccination in HLA-A2-positive patients with metastatic hormone-refractory prostate cancer. *Cancer Sci.*, 95(1): 77-84, 2004.
18. Mine T, Sato Y, Noguchi M, Sasatomi T, Gouhara R, Tsuda N, Tanaka S, Shomura H, Katagiri K, Rikimaru T, Shichijo S, Kamura T, Hashimoto T, Shirouzu K, Yamada A, Todo S, Itoh K and Yamana H. Humoral responses to peptides correlate with overall survival in advanced cancer patients vaccinated with peptides based on pre-existing peptide-specific cellular responses. *Clin Cancer Res.*, 10: 929-937, 2004.
19. Ishihara Y, Harada M, Azuma K, Tamura M, Shomura H, Fujii T, Itoh K and Shichijo S. HER2/neu-derived peptides recognized by both cellular and humoral immune systems in HLA-A2+ cancer patients. *Int. J. Oncology*, 24: 967-975, 2004.
20. Shomura H, Shichijo S, Matsueda S, Kawakami T, Sato Y, Todo S and Itoh K. Identification of epidermal growth factor receptor-derived peptides immunogenic for HLA-A2+ cancer patients. *Br. J. Cancer*, in press, 2004.
21. Takedatsu H, Shichijo S, Azuma K, Takedatsu H, Sata M and Itoh K. Detection of a set of peptide vaccine candidates for use in HLA-A31+ epithelial cancer patients. *Int. J. Oncology*, 24:337-347, 2004.
22. Ogata R, Matsueda S, Yao A, Noguchi M and Itoh K. Identification of polycomb group protein enhancer of zeste homolog 2(EZH2)-derived peptides immunogenic in HLA-A24+ prostate cancer patients. *Prostate*, in press, 2004.
23. Sato Y, Maeda Y, Shomura H, Sasatomi T, Takahashi M, Une Y, Kondo M, Shinohara T, Hida N, Katagiri K, Sato M, Yamada A, Yamana H, Harada M, Itoh K and Todo S. A phase I trial of cytotoxic T lymphocyte precursor-oriented peptide vaccines for colorectal carcinoma patients. *Br. J. Cancer*, in press, 2004.
24. Matsueda S, Yao A, Ishihara Y, Ogata R, Noguchi M, Itoh K and Harada M. A prostate stem cell antigen-derived peptide immunogenic in HLA-A24+ prostate cancer patients. *Prostate*, in press, 2004.
25. Noguchi M, Itoh K, Suekane S, Furuta M, Suetsugu N, Katagiri K, Yamada A, Yamana H and Noda S. Immunological monitoring during combination of patient-oriented peptide vaccination and low-dose estramustine phosphate in patients with metastatic hormone refractory prostate cancer. *Prostate*, in press,

2004.

26. Takao Y, Yamada A, Yutani S, Sata M and Itoh K. Antibody reactive to a hepatitis C virus (HCV)-derived peptide capable of including HLA-A2 restricted cytotoxic T lymphocytes is detectable in the majority of HCV-infected individuals without HLA-A2 restriction. *Microbiology and Immunology*, in press, 2004.

27. Takedatsu H, Shichijo S, Katagiri K, Sawamizu H, Sata M, Itoh K. Identification of peptide vaccine candidates sharing among HLA-A3+, -A11+, -A31+ and -A33+ cancer patients. *Clin. Cancer Res.*, 10: 1112-1120, 2004.

28. Sasada T, Takedatsu H, Azuma K, Koga M, Maeda Y, Shichijo S, Shoumura H., Hirai T, Takabayashi A, Itoh K. IEX-1, a stress inducible anti-apoptotic gene, encodes CTL epitopes capable of inducing HLA-A33-restricted and tumor-reactive CTLs in gastric cancer patients. *Cancer Res.*, in press, 2004.

29. Azuma K, Shichijo S, Shomura H., Matsueda S, Fujii T, Itoh K, Identification of HER2/neu-derived peptides capable of inducing both cellular and humoral immune responses in HLA-A24 positive breast cancer patients. *Breast Cancer Res. Treat.*, in press, 2004.

30. Koga M, Komatsu N, Kawamoto N, Shichijo S, Itoh K, Yamada A. Analysis of cellular localization of SART3 tumor antigen by a newly established monoclonal antibody: Heterotopic expression of SART3 on the surface of B-lineage leukemic cells. *Oncol. Rep.*, 11: 785-789, 2004.

31. Noguchi M, Noda S, Yoshida M, Ueda S, Shiraishi T, Itoh K and The Kurume-Kumamoto Estracyt Study Group. Chemohormonal therapy as primary treatment for metastatic prostate cancer: A randomized study of estramustine phosphate plus luteinizing hormone-releasing hormone agonist versus flutamide plus luteinizing hormone-releasing hormone agonist. *Int. J. Urology*, 11:103-109, 2004.

【 岡 正朗 分担研究者 】

32. Matsuoka K, Ueno T, Morita K, Kawano H, Yamaguchi K, Maekawa T, Tangoku A, Oka M. Effects of Moderate Hypothermia on Proinflammatory Cytokines Production in Rat Model of Caerulein-Induced Pancreatitis. *Pancreas*, 26(1):

E12-E17, 2003.

33. Iizuka N, Oka M, Yamada-Okabe H, Nishida M, Maeda Y, Mori N, Takao T, Tamesa T, Tangoku A, Tabuchi H, Hamada K, Nakayama H, Ishitsuka H, Miyamoto T, Hirabayashi A, Uchimura S, Hamamoto Y. Use of oligonucleotide microarray as a novel approach for prediction of early intrahepatic recurrence in hepatocellular carcinoma after curative resection. *Lancet*, 361: 923-929, 2003.

34. Iizuka N, Mori H, Tamesa T, Tangoku A, Oka M. Nm23-H2 protein expression and telomerase activity in hepatocellular carcinoma. *Anticancer Res.*, 23: 43-47, 2003.

35. Iizuka N, Oka M, Yamada-Okabe H, Mori N, Tamesa T, Okada T, Takemoto N, Hashimoto K, Tangoku A, Hamada K, Nakayama H, Miyamoto T, Uchimura S, Hamamoto Y. Differential Gene Expression in Distinct Virologic Types of Hepatocellular Carcinoma: Association with Liver Cirrhosis. *Oncogene*, 22: 3007-3014, 2003.

36. Arai H, Ueno T, Tangoku A, Yoshino S, Abe T, Kawauchi S, Oga A, Furuya T, Oka M, Sasaki K. Detection of amplified oncogenes by genome DNA microarrays in human primary esophageal squamous cell carcinoma: comparison with conventional comparative genomic hybridization analysis. *Cancer Genet Cytogenet*, 146: 16-21, 2003.

37. Iizuka N, Oka M, Yamamoto K, Tangoku A, Miyamoto K, Miyamoto T, Uchimura S, Hamamoto Y, Okita K. Identification of common or distinct genes related to antitumor activities of a medicinal herb and its major component by oligonucleotide microarray. *Int. J. Cancer*, 107: 666-72, 2003.

38. Ueno T, Tangoku A, Yoshino S, Abe T, Toshimitsu H, Furuya T, Kawauchi S, Oga A, Oka M, Sasaki K. Prediction of Nodal Metastasis by Comparative Genomic Hybridization in Biopsy Specimens from Patients with Superficial Esophageal Squamous Cell Carcinoma. *Clin Cancer Res.*, 9: 5137-5141, 2003.

39. Okada T, Oka M, Iizuka N, Yamada-Okabe H, Mori N, Tamesa T, Takemoto N, Hashimoto K, Tangoku A, Hamada K, Nakayama H, Miyamoto T, Uchimura S, Hamamoto Y. Gene expression profile linked to p53 status in hepatitis C virus-related

hepatocellular carcinoma. FEBS Lett., 555: 583-590, 2003.

40. Takashima M, Kuramitsu Y, Yokoyama Y, Iizuka N, Toda T, Sakaida I, Okita K, Oka M, Nakamura K. Identification of the heat shock protein 70 family as biomarkers against hepatitis C virus-infected hepatocellular carcinoma by proteomic profiling. Proteomics, 3: 2487-2493, 2003.

41. Hinoda Y, Ikematsu Y, Horinochi M, Sato S, Yamamoto K, Nakano T, Fukui M, Suehiro Y, Hamanaka Y, Nishikawa Y, Kida H, Waki S, Oka M, Imai Y, Yonezawa S. Increased expression of MUC1 in advanced pancreatic cancer. J Gastroenterol., 38: 1162-1166, 2003.

42. Iizuka N, Oka M, Yamada-Okabe H, Hamada K, Nakayama H, Mori N, Tamesa T, Okada T, Takemoto N, Matoba K, Takashima M, Sakamoto K, Hashimoto K, Tangoku A, Miyamoto T, Uchimura S, Hamamoto Y. Molecular signature in three types of hepatocellular carcinoma with different viral origin by oligonucleotide microarray. Int. J. Oncol., 24: 565-574, 2004.

43. Tangoku A, Yamamoto S, Suga K, Nagashima Y, Hida M, Sato T, Sakamoto K, Oka M. Sentinel biopsy using computed tomography lymphography to detect sentinel lymph node in breast cancer. Surgery, 135: 258-565, 2004.

【 嘉村敏治 分担研究者 】

44. Xiao H, Kamura T, et.al. Co-expression of Y Box-binding protein-1 and P-glycoprotein as a prognostic marker. Gynecol Oncol., in press, 2003.

45. Yamamoto K, Kamura T, et.al. Pulmonary metastasectomy for uterine cervical cancer: a multivariate analysis. Ann Thorac Surg., in press, 2003.

46. Tsuda N, Kamura T, et.al. Vaccination with pre-designated or evidence-based peptides for patients with recurrent gynecologic cancers. J Immunotherapy, 27: 60-72, 2004.

47. Nishio S, Kamura T, et.al. Weekly 1-h paclitaxel infusion in patients with recurrent endometrial cancer: a preliminary study. Int J Clin Oncol., 8: 45-48, 2003.

48. Kojiro S, Kamura T, et.al. Primary leiomyoma of the ovary- a report of 2 resected cases. Kurume Med J.,

50: 169-172, 2003.

【 七條茂樹 分担研究者 】

49. Kawamoto N, Yamada A, Ohkouchi S, Maeda T, Tanaka S, Hashimoto T, Saijo Y, Saijo S, Nukiwa T, Shichijo S, Aizawa H, Itoh K, IgG reactive to CTL-directed epitopes of self-antigens is enter lacking or unbalanced in atopic dermatitis patients. Tissue Antigen, 61(5): 352-361, 2003.

50. Shichijo S, Azuma K, Komatsu N, Kawamoto N, Takedatsu H, Shomura H, Sawamizu H, Maeda Y, Ito M and Itoh K. Identification of two novel tumor-associated antigens recognized by HLA-B46-restricted cytotoxic T lymphocytes. Int. J. Mol. Med., 12(6): 895-902, 2003.

51. Azuma K, Shichijo S, Takedatsu H, Komatsu N, Sawamizu H and Itoh K. Heat shock cognate protein 70 encodes antigenic epitopes recognised by HLA-B4601-restricted cytotoxic T lymphocytes from cancer patients. Br J Cancer, 89(6): 1079-1085, 2003.

52. Ohkouchi S, Kawamoto N, Koga M, Sakanashi F, Shichijo S, Saijo Y, Nukiwa T, Itoh K and Yamada A. Identification of a CTL-directed epitope encoded by an intron of the putative tumor suppressor gene Testin of the common fragile site 7G region: a peptide vaccine candidate for HLA-B52+ and HLA-62+ cancer patients. Eur J Immunol., 33(11): 2964-2973, 2003.

53. Mine T, Sato Y, Noguchi M, Sasatomi T, Gouhara R, Tsuda N, Tanaka S, Shomura H, Katagiri K, Rikimaru T, Shichijo S, Kamura T, Hashimoto T, Shirouzu K, Yamada A, Todo S, Itoh K and Yamana H. Humoral responses to peptides correlate with overall survival in advanced cancer patients vaccinated with peptides based on pre-existing peptide-specific cellular responses. Clin Cancer Res., 10: 929-937, 2004.

54. Ishihara Y, Harada M, Azuma K, Tamura M, Shomura H, Fujii T, Itoh K and Shichijo S. HER2/neu-derived peptides recognized by both cellular and humoral immune systems in HLA-A2+ cancer patients. Int. J. Oncology, 24: 967-975, 2004.

55. Shomura H, Shichijo S, Matsueda S, Kawakami T, Sato Y, Todo S and Itoh K. Identification of epidermal growth factor receptor-derived peptides immunogenic for HLA-A2+ cancer patients. Br. J. Cancer, in press,

2004.

56. Takedatsu H, Shichijo S, Azuma K, Takedatsu H, Sata M and Itoh K. Detection of a set of peptide vaccine candidates for use in HLA-A31+ epithelial cancer patients. *Int. J. Oncology*, 24:337-347, 2004.

57. Takedatsu H, Shichijo S, Katagiri K, Sawamizu H, Sata M, Itoh K. Identification of peptide vaccine candidates sharing among HLA-A3+, -A11+, -A31+ and -A33+ cancer patients. *Clin. Cancer Res.*, 10: 1112-1120, 2004.

58. Sasada T, Takedatsu H, Azuma K, Koga M, Maeda Y, Shichijo S, Shomura H., Hirai T, Takabayashi A, Itoh K. IEX-1, a stress inducible anti-apoptotic gene, encodes CTL epitopes capable of inducing HLA-A33-restricted and tumor-reactive CTLs in gastric cancer patients. *Cancer Res.*, in press, 2004.

59. Azuma K, Shichijo S, Shomura H., Matsueda S, Fujii T, Itoh K, Identification of HER2/neu-derived peptides capable of inducing both cellular and humoral immune responses in HLA-A24 positive breast cancer patients. *Breast Cancer Res. Treat.*, in press, 2004.

60. Koga M, Komatsu N, Kawamoto N, Shichijo S, Itoh K, Yamada A. Analysis of cellular localization of SART3 tumor antigen by a newly established monoclonal antibody: Heterotopic expression of SART3 on the surface of B-lineage leukemic cells. *Oncol. Rep.*, 11: 785-789, 2004.

【 藤堂 省 分担研究者 】

61. Kishino S, Nomura A, Itoh S, Nakagawa T, Takekuma Y, Sugawara M, Furukawa H, Todo S, Miyazaki K. Age- and gender-related differences in carbohydrate concentrations of α -acid glycoprotein variants and the effects of glycoforms on their drug-binding capacities. *Eur J Clin Pharmacol.*, 58: 621-628, 2002.

62. Tomioka N, Kobayashi H, Kageyama H, Ohira M, Nakamura Y, Sasaki F, Todo S, Nakagawara A, Kaneko Y. Chromosomes That Show Partial Loss or Gain in Near-Diploid Tumors Coincide With Chromosomes That Show Whole Loss or Gain in Near-Triploid Tumors: Evidence Suggesting the Involvement of the Same Genes in the Tumorigenesis of High- and Low-Risk Neuroblastomas, *Genes*.

Chromosomes & Cancer, 36: 139-150, 2003 Feb.

63. Takeda K, Jin MB, Fujita M, Fukai M, Sakurai T, Nakayama M, Taniguchi M, Suzuki T, Shimamura T, Furukawa H, Todo S. A novel inhibitor of Rho-associated protein kinase, Y-27632, ameliorates hepatic ischemia and reperfusion injury in rats. *Surgery*, 133(2): 197-206, 2003 Feb.

64. Nakamura Y, Yasunami Y, Satoh M, Hirakawa E, Katsuta H, Ono J, Kamada M, Todo S, Nakayama T, Taniguchi M, Ikeda S. Acceptance of islet allografts in the liver of mice by blockade of an inducible costimulator. *Transplantation*, 75(8): 1115-1118, 2003 April.

65. Yoshihara T, Naya M, Tsunamoto K, Hojo M, Hibi S, Morimoto A, Todo S, Imashuku S. A preparatory regimen of total body irradiation, busulphan and melphalan for allogeneic bone marrow transplantation in childhood high-risk leukemia and lymphoma. *Anticancer Res.*, 2003 Mar-Apr; 23(2C):1739-42.

66. Skinner JA, Kroon PO, Todo S, Scott G. A femoral component with proximal HA coating. An analysis of survival and fixation at up to ten years. *J Bone Joint Surg Br.*, 2003 Apr; 85(3): 366-70.

67. Kodama Y, Fujita N, Shimizu T, Endo H, Nambu T, Sato N, Todo S, Miyasaka K. Alveolar Echinococcosis: MR Findings in the liver. *Radiology* 228(1):172-177, 2003 July.

68. Jin MB, Todo S. The role of endothelin-1 in hepatic ischemia and reperfusion injury, *J Gastroenterology*, 37(9):763-765, 2002 Sep.

69. Hata Y, Takahashi H, Todo S, Okazaki M, Asaishi K, Hirata K, Okushiba S, Kato H, Uchino J. Ten-Year Results of Randomized Trial on Adjuvant Chemo-Endocrine Therapy with Tamoxifen for Stage II Breast Cancer. *Breast Cancer*, 10(2): 134-139, 2003 April.

70. Toi H, Fujimura-Kamada K, Irie K, Takai Y, Todo S, Tanaka K. She4p/Dim1p Interacts with the Motor Domain of Unconventional Myosins in the Budding Yeast, *Saccharomyces cerevisiae*. *Molecular Biology of the Cell*, 14: 2237-2249, 2003 June.

71. Nishihira J, Ishibashi T, Fukushima T, Sun B, Sato Y, Todo S. Macrophage Migration Inhibitory Factor (MIF) Its Potential Role in Tumor Growth and Tumor-Associated Angiogenesis. Tissue Remodeling, 995: 171-182, 2003 May.
72. Nakagawa T, Takahashi M, Ozaki T, Watanabe K, Hayashi S, Hosoda M, Todo S, Nakagawara A.. Negative autoregulation of p73 and p53 by DeltaNp73 in regulating differentiation and survival of human neuroblastoma cells. Cancer Lett., 2003 Jul 18: 197(1-2): 105-9.
73. Imashuku S, Morimoto A, Kuriyama K, Kano G, Hibi S, Todo S. Chronic myeloid leukemia in a patient with chronic idiopathic thrombocytopenic purpura: rapid response to imatinib mesylate (STI571). Med Pediatr Oncol., 2003 Aug, 41(2): 159-60.
74. Imashuku S, Morimoto Y, Morimoto A, Yamamoto T, Hibi S, Todo S. Pineal dysfunction (low melatonin production) as a cause of sudden death in a long-term survivor of Langerhans cell histiocytosis? Med Pediatr Oncol., 2003 Aug; 41(2):151-3.
75. Todo S, Blunn GW, Harrison M, Freeman MA. The effect on wear of lift-off in total knee arthroplasty. Biomed Mater Eng., 2003; 13(3): 231-4.
76. Kishino S, Takekuma Y, Sugawara M, Shimamura T, Furukawa H, Todo S, Miyazaki K, Influence of continuous venovenous haemodiafiltration of the pharmacokinetics of tacrolimus in liver transplant recipients with small-for-size grafts. Clinical Transplantation, 17: 412-416, 2003 Nov.
77. Yamashita K, Masunaga T, Yanagida N, Takehara M, Hashimoto T, Kobayashi T, Echizenya H, Hua N, Fujita M, Murakami M, Furukawa H, Uede T, Todo S, Long-term acceptance of rat cardiac allografts on the basis of adenovirus mediated CD40lg plus CTLA4lg gene therapies. Transplantation, 76(7): 1089-1096, 2003 Oct.
78. Sun B, Nishihira J, Suzuki M, Fukushima N, Ishibashi T, Kondo M, Sato Y, Todo S. Induction of macrophage migration inhibitory factor by lysophosphatidic acid: relevance to tumor growth and angiogenesis. Int J Mol Med., 2003 Oct, 12(4): 633-41.
79. Takanashi M, Morimoto A, Yagi T, Kuriyama K, Kano G, Imamura T, Hibi S, Todo S, Imashuku S. Impact of glutathione S-transferase gene deletion on early relapse in childhood B-precursor acute lymphoblastic leukemia. Haematologica, 2003 Nov ; 88(11): 1238-44.
80. Osone S, Morimoto A, Tsutsui J, Kano G, Todo S, Sugimoto T. Systemic juvenile idiopathic arthritis mimics multicentric Castleman's disease. Clin Rheumatol., 2003 Dec; 22(6): 484-6. Epub 2003 Nov 01.
81. Ishida H, Morimoto A, Yoshihara T, Kuroda H, Mori K, Fujii N, Tamura S, Hibi S, Todo S, Maruya E, Imashuku S. Non-T-cell-depleted HLA-haploidentical hematopoietic stem cell transplantation from a family donor based on fetomaternal microchimerism in pediatric hematologic malignancies. J Pediatr Hematol Oncol., 2004 Jan; 26(1): 68-71.
82. Hata T, Takahashi H, Watanabe K, Takahashi M, Taguchi K, Itoh T, Todo S. Magnetic Resonance Imaging for Preoperative Evaluation of Breast Cancer: A Comparative Study with Mammography and Ultrasonography. Journal of the American College of Surgeons, 198(2): 190-197, 2004 Feb.
83. Mine T, Sato Y, Noguchi M, Sasatomi T, Gouhara R, Tsuda N, Tanaka S, Shomura H, Katagiri K, Rikimaru T, Shichijo S, Kamura T, Hashimoto T, Shirouzu K, Yamada A, Todo S, Itoh K, Yamana H. Humoral responses to peptides correlate with overall survival in advanced cancer patients vaccinated with peptides based on pre-existing, peptide-specific cellular responses. Clin Cancer Res., 2004 Feb 1,10(3): 929-37
- 【野口正典 分担研究者】
84. Noguchi M, Yahara J, Noda S: Serum levels of bone turnover markers parallel the results of bone scintigraphy in monitoring bone activity of prostate cancer. Urology 61: 993-998, 2003.
85. Harada M, Kobayashi K, Matsueda S, Nakagawa M, Noguchi M and Itoh K: Prostate-specific antigen-derived epitopes capable of inducing cellular and humoral responses in HLA-A24+ prostate cancer patients. Prostate 57: 152-159, 2003.
86. Noguchi M, Kobayashi K, Suetsugu N, Tomiyasu K,

- Suekane S, Yamada A, Itoh K and Noda S: Induction Of Cellular And Humoral Immune Responses To Tumor Cells And Peptides In HLA-A24 Positive Hormone-Refractory Prostate Cancer Patients By Peptide Vaccination. *Prostate* 57: 80-92, 2003.
87. Yahara J, Noguchi M and Noda S.: Quantitative evaluation of bone metastases in prostatic cancer patients during systemic treatment. *BJU Int.*, 92: 379-384, 2003.
88. Noguchi M, Stamey T A and McNeal J E.: Prognostic factors for multifocal prostate cancer in radical prostatectomy specimens: lack of significance of secondary cancers. *J Urol.*, 170: 459-463, 2003.
89. Kobayashi K, Noguchi M, Itoh K and Harada M: Identification of a prostate-specific membrane antigen-derived peptide capable of eliciting both cellular and humoral immune responses in HLA-A24⁺ prostate cancer patients. *Cancer Sci.*, 94: 622-627, 2003.
90. Tanaka S, Harada M, Mine T, Noguchi M, Gohara R, Azuma K, Yamada A, Morinaga A, Nishikori M, Katagiri K, , Itoh K, Yamana H and Hashimoto T.: Peptide vaccination for patients with melanoma and other types of cancers based on pre-existing peptide-specific cytotoxic T lymphocyte precursors in periphery. *J Immunother* 26: 357-366, 2003.
91. Noguchi M, Yahara J, Motomori T and Noda S.: Transurethral Vaporization For Giant Prostatic Hyperplasia: A Case Report. *Kurume Medical Journal*, 50: 151-153, 2003.
92. Noguchi M, Noda S, Yoshida M, Ueda S, Shiraishi T, Itoh K and the Kurume-Kumamoto Estracyt Study Group. Chemohormonal Therapy As Primary Treatment For Metastatic Prostate Cancer: A Randomized Study Of Estramustine Phosphate Plus LHRH Agonist Versus Flutamide Plus LHRH Agonist. *Int. J. Urol.*, 11: 103-109, 2004.
93. Noguchi M, Itoh K, Suekane S, Yao A, Suetsugu N, Kaagiri K, Yamada A, Yamana H, and Noda S. Phase I trial of patient-oriented vaccination in HLA-A2 positive patients with metastatic hormone refractory prostate cancer. *Cancer Sci.*, 95: 77-84, 2004.
94. Matsueda S, Kobayashi K, Nonaka Y, Noguchi M, Itoh K, and Harada M: Identification of new prostate stem cell antigen-derived peptides immunogenic in HLA-A2+ patients with hormone-refractory prostate cancer. *Cancer Immunol Immun.*, 2003 Nov 21.
95. Noguchi M, Itoh K, Suekane S, Morinaga A, Sukehiro A, Suetsugu N, Katagiri K, Yamada A, Noda S. Immunological Monitoring during Combination of Patient-Oriented Peptide Vaccination and Estramustine Phosphate in Patients with Metastatic Hormone Refractory Prostate Cancer. *Prostate*. (in press).
96. Mine T, Sato Y, Noguchi M, Sasatomi T, Gouhara R, Tsuda N, Tanaka S, Shomura H, Katagiri K, Rikimaru T, Shichizo S, Kamura T, Hashimoto T, Shirouzu K, Yamada A, Todo S, Itoh K, and Yamana H. Humoral responses to peptides correlate with overall survival in advanced cancer patients vaccinated with peptides based on pre-existing peptide-specific cellular responses. *Clin. Cancer Res.*, 10: 929-937, 2004.
- 【 山名秀明 分担研究者 】
97. Fujii T., Nakagawa S., Hanzawa M., Sueyoshi S., Fujita H., Shirouzu K., Yamana H.: Immunohistochemical study of cell cycle-related factors, oncogene expression, and cell proliferation in adenocarcinoma developed in Barrett's esophagus. *Oncol. Reports*, 10(2): 427-431, 2003.
98. Fujita H., Sueyoshi S., Tanaka T., Fujii T., Toh U., Mine T., Sasahara H., Sudo T., Matono S., Yamana H., Shirouzu K.: Optimal lymphadenectomy for squamous cell carcinoma in the thoracic esophagus: Comparing the short- and long-term outcome among the four types of lymphadenectomy. *World J. Surg.*, 27(5): 571-579, 2003.
99. Ogata Y., Fujita H., Yamana H., Sueyoshi S., Shirouzu K.: Expression of vascular endothelial growth factor as a prognostic factor in node-positive squamous cell carcinoma in the thoracic esophagus: Long-term follow-up study. *World J. Surg.*, 27(5): 584-589, 2003.
100. Heroor A., Fujita H., Sueyoshi S., Tanaka T., Toh U., Mine T., Sasahara H., Sudo T., Matono S., Yamana H., Shirouzu K.: Adjuvant chemotherapy after radical resection of squamous cell carcinoma in the thoracic esophagus: who benefits? A retrospective study. *Dig Surg.*, 20(3): 229-235, 2003.
101. Sudo T., Sueyoshi S., Fujita H., Yamana H., Shirouzu K.: Esophageal perforation caused by a press though pack. *Dis Esophagus* 16(2): 169-172, 2003.

102. Mine T., Gouhara R., Hida N., Imai N., Azumi K., Rikimaru T., Katagiri K., Nishikori M., Sukehiro A., Nakagawa M., Yamada A., Aizawa H., Shirouzu K., Itoh K., Yamana H.: Immunological evaluation of CTL precursor-oriented vaccines for advanced lung cancer patients. *Cancer Sci.*, 94(6): 548-556, 2003.

103. Tanaka S., Harada M., Mine T., Noguchi M., Gohara R., Azuma K., Tamura M., Yamada A., Morinaga A., Nishikori M., Katagiri K., Itoh K., Yamana H., Hashimoto T.: Peptide vaccination for patients with melanoma and other types of cancer based on pre-existing peptide-specific cytotoxic T-lymphocyte precursors in the periphery. *J. Immunother*, 26(4): 357-366, 2003.

104. Sato Y., Shomura H., Maeda Y., Mine T., Une Y., Akasaka Y., Kondo M., Takahashi S., Shinohara T., Katagiri K., Sato M., Okada S., Matsui K., Yamada A., Yamana H., Itoh K., Todo S.: Immunological evaluation of peptide vaccination for patients with gastric cancer based on pre-existing cellular response to peptide. *Cancer Sci.*, 94(9): 802-808, 2003.

105. Matono S., Tanaka T., Sueyoshi S., Yamana H., Fujita H., Shirouzu K.: Bystander effect in suicide gene therapy is directly proportional to the degree of gap junctional intracellular communication in esophageal cancer. *Int. J. Oncol.*, 23(5): 1309-1315, 2003.

106. Nakagawa S., Fujii T., Yokoyama G., Kazanietz MG., Yamana H., Shirouzu K.: Cell growth inhibition by all-trans retinoic acid in SKBR-3 breast cancer cells: involvement of protein kinase C α and extracellular signal-regulated kinase motogen-activated protein kinase. *Mol. Carcinog.*, 38(3): 106-116, 2003.

107. Ando N., Iizuka T., Ide H., Ishida K., Shinoda M., Nishimaki T., Takiyama W., Watanabe H., Isono K., Aoyama N., Makuuchi H., Tanaka O., Yamana H., Ikeuchi S., Kabuto T., Nagai K., Shimada Y., Kinjo Y., Fukuda H.: Surgery plus chemotherapy compared with surgery alone for localized squamous cell carcinoma of the thoracic esophagus: A Japan Clinical Oncology Group Study-JCOG9204. *J. Clin. Oncol.*, 21(24): 4592-4596, 2003.

108. Kubota M., Sueyoshi S., Fujita H., Fujii T., Yamana H., Shirouzu K.: Spontaneous regression in small cell esophageal carcinoma. *Jpn. J. Thoracic Cardiovasc Surg*, 51(12): 660-664, 2003.

1-2. 論文発表 (和文査読誌掲載論文)

【伊東恭悟 主任研究者】

1. 助廣亜希、津田尚武、望月一生、田村真由美、雲井加代子、伊東恭悟:癌ペプチドワクチン臨床試験を受ける再発婦人科がん患者の看護. *日本がん看護学会誌*, 17:43-54, 2003.

2. 田村真由美、伊東恭悟:臨床試験リサーチナースの役割-臨床研究の立場から-. *日本看護学会誌*, 17:47-51, 2003.

3. 古田雅俊、由谷茂、峯孝志、伊東恭悟:医師主導型臨床試験における電子カルテ導入に向けての検討. *医療とIT*. 2004/2, <http://www.epj.co.jp/medcom/home/index.html>.

【岡 正朗 分担研究者】

なし

【嘉村敏治 分担研究者】

なし

【七條茂樹 分担研究者】

なし

【藤堂 省 分担研究者】

4. 古川博之、嶋村剛、陳孟鳳、鈴木友己、谷口雅彦、藤堂省:特集 肝静脈再建をめぐる諸問題 III. 肝静脈再建のテクニック 7.死体全肝移植における肝静脈再建 *外科*65(1):62-67, 2003 Jan.

5. 古川博之、嶋村剛、陳孟鳳、鈴木友己、谷口雅彦、藤堂省:特集-小腸移植 小腸移植の治療成績 (1) 欧米における現状 Outcome in intestinal transplantation. Current Status in western countries. *栄養 評価と治療*20(1):59-63, 2003 Feb.

6. 陳孟鳳、嶋村剛、谷口雅彦、鈴木友己、古川博之、藤堂省:特集-小腸移植 小腸移植の展望 A prospect of the small bowel transplantation. *栄養 評価と治療* 20(1): 71-74, 2003 Feb.

7. 岸野吏志、越浪由加、菅原満、丸藤哲、古川博之、藤堂省、宮崎勝巳:生体肝移植患者における持続血液濾過透析(CHDF)施行時のタクロリムスの血中動態 TDM研究20(1): 24-29, 2003 March.

8. 田口和典、秦庸壮、高橋弘昌、河合朋昭、前田好章、伊藤東一、高橋将人、太田聡、伊藤智雄、安達武

- 彦、藤堂省:スクリーニングマンモグラフィ併用乳癌検診にて発見された腫瘍非形成微細石灰化を呈する乳癌の検討 日本臨床外科学会雑誌64(2): 297-304, 2003 Feb.
9. 植木伸也、高橋弘昌、高橋将人、田口和典、伊藤智雄、藤堂省:Weekly Trastuzumab-Paclitaxel療法が著効を示した乳房温存手術後炎症性乳癌型皮膚再発の1例 日本臨床外科学会雑誌64(3): 598-602, 2003 March.
10. 古川博之、嶋村剛、陳孟鳳、鈴木友己、谷口雅彦、服部優宏、神山俊哉、松下通明、藤堂省:特集-肝癌に対する生体肝移植 適応基準 移植38(3): 165-172, 2003 June.
11. 陳孟鳳、嶋村剛、服部優宏、鈴木友己、谷口雅彦、中川隆公、神山俊哉、松下通明、古川博之、藤堂省:第2章 各論:各種病態別アルブミン製剤の使い方の実際 成人生体肝移植 アルブミン臨床マニュアル-適正使用の実際- メディカルレビュー社pp169-174, 2003 August.
12. 神山俊哉、中川隆公、中西一彰、倉内宣明、蒲池浩文、松下通明、藤堂省:Stage III, IV-A高度進行肝細胞癌に対する肝切除後Low-Dose FP動注療法の成績癌と化学療法30(11): 1618-1620, 2003 Oct.
13. 若山顕治、神山俊哉、松下通明、中川隆公、倉内宣明、蒲池浩文、緒方俊郎、菊池弘展、腰塚靖之、佐藤正法、藤堂省:肝円蓋部に発生した肝細胞癌3例に対する胸腔鏡外マイクロウェーブ凝固術 Journal of Microwave Surgery21: 83-87, 2003 Dec.
14. 倉内宣明、松下通明、蒲池浩文、神山俊哉、中川隆公、中西一彰、川村秀樹、藤堂省:胆管癌の外科的治療指針-肛門部胆管癌を中心に 外科65(13): 1691-1698, 2003 Dec.
15. 川村秀樹、神山俊哉、倉内宣明、中川隆公、蒲池浩文、横山良司、工藤岳秋、下國達志、松下通明、藤堂省:^{99m}Tc-GSAシンチグラフィを用いた肝障害度別換算ICGR₁₅による肝予備能の評価 日本消化器外科学会雑誌37(1):14-20, 2004 Jan.
16. 上徳ひろみ、腰塚靖之、片山知也、高橋将人、田口和典、高橋弘昌、藤堂省:乳癌術後リハビリ開始時期がドレーン留置期間に及ぼす影響 北海道外科雑誌48(2): 45-48, 2003 Dec.
17. 岸野吏志、宮崎勝巳、嶋村剛、古川博之、藤堂省:25.生体部分肝移植患者におけるタクロリムスの体内動態とその変動要因 薬理と治療31: s161-164, 2003 Dec.
18. 砂原正男、神山俊哉、佐藤直樹、倉内宣明、伊東東一、大久保尚、片山知也、松下通明、藤堂省:下大静脈閉塞を伴った多包性肝エキノコックス症2切除例の検討 日本消化器外科学会雑誌37(2): 165-170, 2004 Feb.
19. 岸野吏志、馬淵朋美、武隈洋、菅原満、嶋村剛、古川博之、藤堂省、宮崎勝巳:生体部分肝移植患者におけるLinezolid(Zyvox)の体内動態 TDM 研究 21(1):21-25, 2004 Feb.
20. 神山俊哉、中川隆公、中西一彰、倉内宣明、蒲池浩文、嶋村剛、古川博之、松下通明、藤堂省:特集 術前・術後のサーベイランスプログラムV.肝 1.肝細胞癌 外科65(12):1470-1477, 2003 Nov.
- 【野口正典 分担研究者】
なし
- 【山名秀明 分担研究者】
21. 的野 吾、藤田博正、末吉 晋、田中寿明、笹原弘子、森 直樹、李 美慧、山名秀明、白水和雄、立石秀夫、豊永 純、中島 格:食道癌と紛らわしい食道疾患. 臨床外科, 58(9): 1199-1204, 2003.
- 1-3. 論文発表 (総説・プロシーディング・その他)
- 【伊東恭悟 主任研究者】
1. 峯孝志、伊東恭悟、山名秀明:腫瘍ワクチン療法:テラーメイド型ペプチドワクチン 創薬への展開. Surgery Frontier, 10:42-46, 2003.
2. 伊東恭悟:癌治療ペプチドワクチンの現状と展望. 第26回日本医学会総会会誌, 55, 2003.
3. 伊東恭悟:癌治療ペプチドワクチン開発〜3分子え合による生体反応の医薬への応用〜. Bioベンチャー, 3-4:71-74, 羊土社, 2003.
4. 末金茂高、野口正典、伊東恭悟:免疫療法 化学療法の領域19 増刊号:42-47, 医薬ジャーナル, 2003.
- 【岡 正朗 分担研究者】
5. 岡正朗:消化器癌のワクチン療法. 山口医学, 2003, 52: 52-54.
6. 河岡徹、山本光太郎、岡正朗:癌退縮抗原. コン

センサス癌治療, 2003, 2: 168.

7. 河岡徹、山本光太郎、岡正朗: 浸潤性膵管癌と紛らわしい疾患. 臨床外科, 2003, 58:1235-1241.

8. 山本光太郎、岡正朗: 膵頭十二指腸切除術後の再建法とその意義. 消化器外科, 2003, 26:1779-1786.

【嘉村敏治 分担研究者】

なし

【七條茂樹 分担研究者】

なし

【藤堂省 分担研究者】

9. 嶋村剛、鈴木友己、陳孟鳳、谷口雅彦、古川博之、藤堂省: 大動物臓器移植実験マニュアル 3-3同所性全肝移植 イヌ(ビーグル犬) 日本医学館pp90-96, 2003 April.

10. 松下通明、蒲池浩文、中川隆公、溝部佳代、神山俊哉、倉内宣明、藤堂省: ケアにつなげる消化器外科の基礎知識～肝臓編 消化器外科 Nursing, 8(6): 546-559, 2003 June.

11. 嶋村剛、藤堂省: ウイルス肝炎の治療はどのように変わったか 劇症肝炎の治療 外科的治療 消化器病セミナー・91 へるす出版pp159-175, 2003.June.

12. 緒方俊郎、神山俊哉、松下通明、中川隆公、髭修平、藤堂省: 肝動脈塞栓術及び経皮経肝エタノール注入療法後に門脈腫瘍栓を伴う局所再発を来した肝細胞癌の3切除術 肝臓44(5)230-236, 2003 July.

13. 陳孟鳳、嶋村剛、服部優宏、鈴木友己、谷口雅彦、中山雅人、田原宗徳、橋本卓、中川隆公、神山俊哉、松下通明、古川博之、藤堂省: 特集 肝臓移植の現況 北海道外科雑誌48(1):2-8, 2003 June.

14. 下國達志、高橋将人、田口和典、高橋弘昌、佐々木文章、藤堂省: 一卵性双生児に同時期に発症した甲状腺乳頭癌症例 日本臨床外科学会雑誌64(6)1331-1336, 2003 June.

15. 陳孟鳳、嶋村剛、服部優宏、鈴木友己、谷口雅彦、中川隆公、神山俊哉、松下通明、古川博之、藤堂省: 第2章 各論: 各種病態別アルブミン製剤の使い方の実際 成人生体肝移植 アルブミン臨床マニュアルー適正使用の実際ー メディカルレビュー社pp169-174,

2003 August.

16. 加納沙理、中木村繁、高橋将人、田口和典、倉内宣明、高橋弘昌、佐々木文章、藤堂省: 急性膵炎を契機に発見された若年者原発性副甲状腺機能亢進症の1例 北海道外科雑誌48(1): 14-18, 2003 June.

17. 神山俊哉、倉内宣明、藤堂省: 11.肝疾患に対する腹腔鏡手術 内視鏡による新しい外科治療(北海道医報臨時増刊号)42-46, 2003 Sept..

18. 松下通明、蒲池浩文、大久保尚、松本秀一郎、森田恒彦、小林智、佐藤雄久、田中賢、下村政嗣、藤堂省: 特集 再生医学 tissue engineering による肝組織再構成 Surgery Frontier 10(3): 21-24, 2003 Sept.

19. 松下通明、嶋村剛、陳孟鳳、太田稔、服部優宏、谷口雅彦、鈴木友己、神山俊哉、古川博之、藤堂省: 劇症肝不全に対する肝移植におけるアフレスシスの役割 日本アフレスシス学会雑誌22(3):181-184, 2003 Oct.

20. 陳孟鳳、嶋村剛、服部優宏、鈴木友己、谷口雅彦、中川隆公、神山俊哉、松下通明、古川博之、藤堂省: クリニカルパスによる外科医療の進歩 肝移植のクリニカルパス 臨床外科58(11)144-151, 2003 Oct.

21. 嶋村剛、古川博之、陳孟鳳、鈴木友己、谷口雅彦、太田稔、萩原邦子、神山俊哉、松下通明、藤堂省: 肝癌治療における生体肝移植 今日の移植 16(5): 466-472 2003 Sep.

22. 谷口雅彦、嶋村剛、陳孟鳳、鈴木友己、古川博之、藤堂省: 臓器移植とHLA 週間医学のあゆみ207(8): 538-542, 2003 Nov.

23. 中西一彰、神山俊哉、中川隆公、蒲池浩文、倉内宣明、松下通明、藤堂省: 特集 消化器疾患に対するクリニカルパスの評価 11.肝臓外科 外科66(1): 60-65, 2004 Jan.

24. 岸野吏志、馬淵朋美、武隈洋、菅原満、嶋村剛、古川博之、藤堂省、宮崎勝巳: 生体部分肝移植患者における Linezolid(Zyvox) の体内動態 TDM 研究 21(1):21-25, 2004 Feb.

25. 中西一彰、神山俊哉、中川隆公、蒲池浩文、倉内宣明、松下通明、藤堂省: 特集 消化器疾患に対するクリニカルパスの評価 11.肝臓外科 外科66(1): 60-65, 2004 Jan.

【 野口正典 分担研究者 】

26. 野口正典、野田進士:術後尿失禁防止ならびに早期尿道留置カテーテル抜去可能な前立腺全摘術への工夫:恥骨前立腺靱帯前方付着温存つり上げ法. 西日泌尿 65: 318-323, 2003.

27. 野口正典、野田進士、他:福岡県筑後市健康フェアにおける前立腺集団検診. 西日泌尿 65: 596-600, 2003.

28. 末金茂高、野口正典、伊東恭悟:免疫療法. ANTIBIOTICS & CHEMOTHERAPY 19, S-1: 42-47, 2003.

29. 野口正典、野田進士:前立腺癌検診の意義-他科領域のために. 臨床と研究 80: 1124-1126, 2003.

30. Harada M, Noguchi M, Itoh K: Target molecules in specific immunotherapy against prostate cancer. Int J Clin Oncol 8: 193-199, 2003.

【 山名秀明 分担研究者 】

31. 藤田博正、末吉 晋、田中寿明、笹原弘子、的野 吾、山名秀明、白水雄、鈴木 弦、早瀬尚文:食道癌のChemoradiotherapy. 癌と化学療法30(7): 937-943, 2003.

32. 山名秀明:食道癌の集学的治療. 外科 65(9): 1076-1080, 2003.

33. 唐 宇飛、山名秀明、木戸浩一郎、峯 孝志、藤井輝彦、堀内彦之、笹富輝男、石橋生哉、藤田博正、白水雄:癌局所療法としての細胞免疫療法による癌患者免疫状態への影響とその臨床効果. 癌と化学療法30(11): 1566-1570, 2003.

34. 峯 孝志、伊東恭悟、山名秀明:腫瘍ワクチン療法:テーラーメイド型ペプチドワクチン創薬への展開. Surgery Frontier 10(4): 380-384, 2003.

35. 田中寿明、末吉 晋、笹原弘子、的野 吾、山名秀明、白水雄、藤田博正:再発食道癌に対するDocetaxel, 5-FU, CDDPを用いた化学療法 -Pilot Studyとして-. 癌と化学療法30(12): 1955-1958, 2003.

1-4. 論文発表 (著書)

【 伊東恭悟 主任研究者 】

なし

【 岡 正朗 分担研究者 】

なし

【 嘉村敏治 分担研究者 】

なし

【 七條茂樹 分担研究者 】

なし

【 藤堂 省 分担研究者 】

1. 藤堂省、松下通明:15章 肝・胆・膵・脾・腹膜疾患 B 肝疾患 12肝腫瘍c 転移性肝癌 ダイナミックメディスン4 西村書店pp61-62, 2003 July.

2. 藤堂省、神山俊哉:15章 肝・胆・膵・脾・腹膜疾患 B 肝疾患 12肝腫瘍d 肝血管腫 ダイナミックメディスン4 西村書店pp63-64, 2003 July.

3. 藤堂省、古川博之:15章 肝・胆・膵・脾・腹膜疾患 B 肝疾患 20肝移植 ダイナミックメディスン4 西村書店pp96-98, 2003 July.

【 野口正典 分担研究者 】

なし

【 山名秀明 分担研究者 】

4. 山名秀明、伊東恭悟:2. 癌ワクチン 臨床腫瘍学3版、日本臨床腫瘍学会編、癌と化学療法社, pp326-336, 東京, 2003(11月).

2. 学会発表

2-1. 海外学会発表(口頭・ポスター発表)

【 伊東恭悟 主任研究者 】

1. Harada M., Itoh K. Peptide-based Anti-cancer Vaccine Against Prostate Cancer. The 7th US-Japan Cellular and Gene Therapy Conference, Maryland, USA (2004.3.4)

【 岡 正朗 分担研究者 】

なし

【 嘉村敏治 分担研究者 】

2. Kamura T. Neoadjuvant chemotherapy in ovarian cancer. 9th Seoul International Symposium, Seoul, Korea (2003.10.17-19)

3. Kamura T. Appropriate chemotherapy in ovarian cancer. The 17th FIGO World Congress Of Gynecology and Obstetrics, Santiago, Chile (2003.11.2 ~7)

4. Kamura T. Neoadjuvant chemotherapy in ovarian

cancer. 17th FIGO World Congress Of Gynecology and Obstetrics, Santiago, Chile (2003.11.2~7)

【七條茂樹 分担研究者】

なし

【藤堂 省 分担研究者】

なし

【野口正典 分担研究者】

5. Noguchi M, Stamey TA, McNeal, Nolley R. Prognostic factors for multifocal prostate cancer in radical prostatectomy specimens: Lack of significance of secondary cancers. American Urological Association the 98th Annual Meeting. Chicago, U.S.A. April 25 - May 1, 2003.

6. Noguchi M, Shimada A, Ogata H, Noda S. Urodynamic findings after radical retropubic prostatectomy using suspension technique for rapid recovery of continence. International Continence Society 33rd Annual Meeting, Florence, Italy. 5th - 9th October 2003.

7. Noguchi M, Kobayashi K, Suetsugu N, Tomiyasu K, Suekane S, Yamada A, Itoh K, Noda S. Induction Of Cellular And Humoral Immune Responses To Tumor Cells And Peptides In HLA-A24 Positive Hormone-Refractory Prostate Cancer Patients By Peptide Vaccination. 8th World Congress on Advances in Oncology and 6th International Symposium on Molecular Medicine, Crete, Greece. 16-18 October, 2003.

8. Noguchi M, Shimada A, Yahara J, Suekane S, Noda S. Early catheter removal 3 days after radical retropubic prostatectomy. The 19th Congress of the European Association of Urology. Vienna, Austria. March 24-27, 2004.

9. Noguchi M, Itoh K, Yao A, Mine T, Yamada A, Obata Y, Furuta M, Suekane S, Matsuoka K. Immunological evaluation of individualized peptide vaccination with low dose of estramustine for HLA-A24⁺ HRPC patients. The 19th Congress of the European Association of Urology. Vienna, Austria. March 24-27, 2004.

【山名秀明 分担研究者】

10. Kato H., Udagawa H., Togo A., Ando N., Tanaka O., Shinoda M., Aogi K., Yamana H., Shimizu H.,

Fukuda H. A phase II trial of chemo-radiotherapy in patients with Stage I esophageal squamous cell carcinoma: Japan Clinical Oncology Group Study(JCOG9708)39th Annual Meeting of the American Society of Clinical Oncology(ASCO) General Poster Session. (2003.5.31-6.3)

2-2. 国内学会発表(口頭・ポスター発表)

【伊東恭悟 主任研究者】

1. 伊東恭悟:癌治療ペプチドワクチンの現状と展望. 第26回日本医学会総会, 4/5/2003, 福岡.

2. 伊東恭悟:テーラーメイドがんペプチドワクチン; 第II相試験から創薬化へ. 第62回日本癌学会総会, 9/25-27/2003. 名古屋.

3. 七條茂樹、竹田津宏子、伊東恭悟:HLA-A3 supertype癌患者に対する癌ワクチン候補ペプチドの同定. 第62回日本癌学会総会, 9/25-27/2003, 名古屋.

4. 竹田津宏子、原田守、峯孝志、由谷茂、七條茂樹、山田亮、岡村孝、山名秀明、佐田通夫、伊東恭悟:血液悪性腫瘍における上皮癌関連抗原の発現と抗原ペプチドによるワクチン療法. 第62回日本癌学会総会, 9/25-27/2003, 名古屋.

5. 笹田哲朗、東公一、古賀真、前田好章、正村裕紀、七條茂樹、高林有道、伊東恭悟:胃癌患者由来の細胞傷害性T細胞株の認識するHLA-A33拘束性癌抗原の同定. 第62回日本癌学会総会. 9/25-27/2003, 名古屋.

6. 東公一、七條茂樹、正村裕紀、藤井輝彦、伊東恭悟:HLA-A24乳癌患者における細胞性及び液性免疫により認識されるHER2/neu由来抗原ペプチドの同定. 第62回日本癌学会総会, 9/25-27/2003, 名古屋.

7. 田村真由美、正村裕紀、小松誠和、東公一、藤井輝彦、七條茂樹、伊東恭悟:がん患者血清中IgGによって認識されるHLA-A2拘束性HER2/neu抗原ペプチドによる癌特異的細胞傷害性T細胞の誘導. 第62回日本癌学会総会, 9/25-27/2003, 名古屋.

8. 峯孝志、佐藤裕二、野口正典、笹富輝男、合原るみ、津田尚武、田中聖子、正村裕樹、白水和雄、藤堂省、山田亮、山名秀明、伊東恭悟:癌ペプチドワクチン療法における予後判定マーカーの検討. 第62回日本癌学会総会, 9/25-27/2003, 名古屋.

9. 山本光太郎、鈴木伸明、河岡徹、吉野茂文、裕彰一、伊東恭悟、岡正朗:膵癌に対する癌ペプチドワクチン療法の第I相試験. 第62回日本癌学会総会, 9/25

-27/2003, 名古屋.

10. 正村裕紀、佐藤裕二、前田好章、峯孝志、山田亮、山名秀明、藤堂省、伊東恭悟:高度進行・再発胃癌に対するCTL precursor-oriented癌ペプチドワクチンの第一相臨床試験. 第62回日本癌学会総会, 9/25-27/2003, 名古屋.

11. 矢島直樹、山中龍也、土屋尚人、山田亮、伊東恭悟、田中隆一:再発悪性神経膠腫に対するCTL precursor-orientedペプチドワクチン療法の第一相臨床試験. 第62回日本癌学会総会, 9/25-27/2003, 名古屋.

12. 山田亮、峯孝志、合原るみ、笹富輝男、野口正典、津田尚武、望月一生、田中聖子、正村裕紀、佐藤裕二、山名秀明、伊東恭悟:テラーメイドワクチン投与患者における抗ペプチド抗体と臨床予後との相関. 62回日本癌学会総会, 9/25-27/2003, 名古屋.

13. 小松誠和、七條茂樹、伊東恭悟:ペプチドワクチン療法における免疫応答の多検体モニタリング法. 62回日本癌学会総会, 9/25-27/2003, 名古屋.

14. 伊東恭悟:テラーメイド癌ペプチドワクチン - 第II相試験から創薬化へ-. 第68回日本泌尿器科学会東部総会 教育講演, 10/9-11/2003, 弘前.

15. 伊東恭悟:テラーメイドがんペプチドワクチン. シンポジウム6. 第41回日本癌治療学会総会, 10/22-24/2003, 札幌.

16. 伊東恭悟:テラーメイド癌ペプチドワクチンの現状と展望. 第1回泌尿器腫瘍免疫研究会 特別講演, 11/1/2003, 東京.

17. 高尾由香里、山田亮、由谷茂、伊東恭悟:C型肝炎ウイルス特異的HLA拘束性CTLエピトープに対する血中抗体の解析. 第33回日本免疫学会総会・学術集会, 12/8-10/2003, 福岡.

18. 織田慶子、山田亮、伊東恭悟:川崎病患児での自己抗原由来ペプチドに対するIgG, IgM抗体産生能. 第33回日本免疫学会総会・学術集会, 12/8-10/2003, 福岡.

19. 尾方里香、原田守、松枝智子、八尾昭久、伊東恭悟:抗体とCTLに認識される前立腺癌関連蛋白EZH2由来抗原ペプチドの同定. 第33回日本免疫学会総会・学術集会, 12/8-10/2003, 福岡.

20. 八尾昭久、原田守、松枝智子、伊東恭悟:前立腺

癌患者で免疫原性を有するparathyroid hormone related protein由来抗原ペプチドの同定. 第33回日本免疫学会総会・学術集会, 12/8-10/2003, 福岡.

21. 松枝智子、原田守、伊東恭悟:HLA-A2陽性前立腺癌患者において免疫原性を有するPSCA由来抗原ペプチドの同定. 第33回日本免疫学会総会・学術集会, 12/8-10/2003, 福岡.

22. Itoh K., Yamada A., Yamana H., Mine T., Shichijo S., Harada N., Tsuda N., Azuma K., Sato Y. and Todo S. PHASE I CLINICAL TRIAL OF INDIVIDUAL PEPTIDE VACCINATION FOR ADVANCED CANCER PATIENTS. The 34th International Symposium of The Princess Takamatsu Cancer Research Fund, Tokyo, Japan (2003.12.11-13)

【岡 正朗 分担研究者】

23. 山本光太郎、上野富雄、矢原昇、河岡徹、丹黒章、岡正朗:膵頭十二指腸切除術における上腸間膜動脈左半周神経温存郭清. 日本肝胆膵外科関連会議, 5/14-16/2003, 金沢.

24. 河岡徹、山本光太郎、上野富雄、矢原昇、岡正朗:膵癌術後免疫療法の成績. 日本肝胆膵外科関連会議, 5/14-16/2003, 金沢.

25. 山本光太郎、上野富雄、矢原昇、河岡徹、年光宏明、裕彰一、丹黒章、岡正朗:膵癌に対する手術適応の再考と新たな複合免疫療法. 第103回日本外科学会定期学術集会, 6/4-6/2003, 札幌.

26. 河岡徹、裕彰一、矢原昇、山本光太郎、吉野茂文、丹黒章、岡正朗:切除不能・再発膵癌に対する細胞・ワクチン療法の治療方針. 第103回日本外科学会定期学術集会, 6/4-6/2003, 札幌.

27. 山本光太郎、鈴木伸明、河岡徹、吉野茂文、裕彰一、伊東恭悟、岡正朗:膵癌に対する癌ペプチドワクチン療法の第I相試験. 第62回日本癌学会総会, 9/25-27/2003, 名古屋.

28. 河岡徹、吉野茂文、裕彰一、丹黒章、岡正朗:癌性胸腹水に対するレンチナン+OK-432胸腹腔内投与の基礎的及び臨床的検討. 第24回癌免疫外科研究会 第25回日本癌局所療法研究会ジョイントミーティング, 6/18-19/2003, 千葉.

29. 山本光太郎、上野富雄、矢原昇、河岡徹、年光宏明、丹黒章、岡正朗:切除適応膵癌に対する複合的免疫療法による治療戦略. 第34回日本膵臓学会大会, 7/10-11/2003, 千葉.

30. 河岡徹、上野富雄、山本光太郎、矢原昇、裕彰一、丹黒章、岡正朗: Stage4膵癌に対する免疫療法を中心とした多角的治療選択. 第58回日本消化器外科学会総会, 7/16-18/2003, 東京.

31. 山本光太郎、鈴木伸明、上野富雄、矢原昇、河岡徹、丹黒章、伊東恭悟、岡正朗: 膵癌に対する癌抗原ペプチドワクチン療法の可能性. 第58回日本消化器外科学会総会, 7/16-18/2003, 東京.

32. 河岡徹、山本光太郎、吉野茂文、裕彰一、丹黒章、岡正朗: 癌性胸腹水に対するレンチナン+ OK-432胸腹水腔内投与の臨床的検討. 第16回日本バイオセラピー学会学術集会総会, 12/4-5/2003, 富山.

33. 山本光太郎、鈴木伸明、河岡徹、吉野茂文、裕彰一、伊東恭悟、岡正朗: 膵癌に対する癌ペプチドワクチン療法を併用した集学的治療戦略. 第16回日本バイオセラピー学会学術集会総会, 2003年12月4-5日, 富山.

【嘉村敏治 分担研究者】
なし

【七條茂樹 分担研究者】

34. 七條茂樹、竹田津宏子、伊東恭悟: HLA-A3 supertype癌患者に対する癌ワクチン候補ペプチドの同定. 第62回日本癌学会総会, 9/25-27/2003, 名古屋.

35. 竹田津宏子、原田守、峯孝志、由谷茂、七條茂樹、山田亮、岡村孝、山名秀明、佐田通夫、伊東恭悟: 血液悪性腫瘍における上皮癌関連抗原の発現と抗原ペプチドによるワクチン療法. 第62回日本癌学会総会, 9/25-27/2003, 名古屋.

36. 笹田哲朗、東公一、古賀真、前田好章、正村裕紀、七條茂樹、高林有道、伊東恭悟: 胃癌患者由来の細胞傷害性T細胞株の認識するHLA-A33拘束性癌抗原の同定. 第62回日本癌学会総会. 9/25-27/2003, 名古屋.

37. 東公一、七條茂樹、正村裕紀、藤井輝彦、伊東恭悟: HLA-A24乳癌患者における細胞性及び液性免疫により認識されるHER2/neu由来抗原ペプチドの同定. 第62回日本癌学会総会, 9/25-27/2003, 名古屋.

38. 田村真由美、正村裕紀、小松誠和、東公一、藤井輝彦、七條茂樹、伊東恭悟: がん患者血清中IgGによって認識されるHLA-A2拘束性HER2/neu抗原ペプチドによる癌特異的細胞傷害性T細胞の誘導. 第62回日本癌学会総会, 9/25-27/2003, 名古屋.

39. 小松誠和、七條茂樹、伊東恭悟: ペプチドワクチン療法における免疫応答の多検体モニタリング法. 62回日本癌学会総会, 9/25-27/2003, 名古屋.

40. Itoh K., Yamada A., Yamana H., Mine T., Shichijo S., Harada N., Tsuda N., Azuma K., Sato Y. and Todo S. PHASE I CLINICAL TRIAL OF INDIVIDUAL PEPTIDE VACCINATION FOR ADVANCED CANCER PATIENTS. The 34th International Symposium of The Princess Takamatsu Cancer Research Fund, Tokyo, Japan (2003.12.11-13)

【藤堂省 分担研究者】

41. 藤堂省: 「乳房温存療法と放射線療法」(札幌医大 大村東生先生)、日本外科学会北海道地区生涯教育セミナー、2003.1.11、札幌市.

42. 藤堂省: 「私の考える医療特区」〜どのような規制緩和が必要なのか〜、第6回九州地区テルモ病院経営シンポジウム、2003.1.25、福岡市.

43. 藤堂省: 「わが国の移植医療を考える」、第30回日本集中治療医学会総会、2003.2.4、札幌市.

44. 藤堂省: 「北海道における移植医療の現状」、第1回沖縄県臓器移植推進協議会、2003.2.8、沖縄市.

45. 藤堂省: 「肝細胞癌と肝移植」、第12回愛媛肝臓外科学研究会、2003.2.15、松山市.

46. 藤堂省: 「本邦における臓器移植の現状と問題点」、第19回臨床フリーラジカル会議、2003.2.22、京都市.

47. 藤堂省: 「我が国の移植医療の現状と問題点」、宮崎県医師会勤務医部会講演会、2003.3.1、宮崎市.

48. 藤堂省: 「自己組織化とは何か? ナノテクノロジーを支えるもの」、科学技術振興事業団ジョイントフォーラムー医療に向けた自己組織化等の分子配列制御による機能性材料・システムの創製研究領域ワークショップ、2003.3.3、苫小牧市.

49. 藤堂省: Session II-6「Aggressive Vascular Approaches to Complex Liver Problems」(Lahey Clinic Medical Center, USA, Roger L. Jenkins先生)、第7回手術手技フォーラム、2003.3.3、名古屋市.

50. 藤堂省: シンポジウム柱4-16再生医学と移植医療 臓器移植の最前線(名古屋大学大島教授と一緒に)第26回日本医学会総会学術講演会、2003.4.6、福岡市.

51. 藤堂省:イブニングセミナー招待講演3 (Univ.of Rochester Medical Center, USA, Dr. Ashok Jain先生)、第21回日本肝移植研究会、2003.4.10、長崎市。
52. 藤堂省:「我が国の移植医療の現状と対策」、北海道警察本部教養セミナー、2003.4.14、札幌市。
53. 藤堂省:「北海道ドナーアクションプログラムにおける病院意識調査の結果」(ドナーアクションの勉強会)、中村記念病院、2003.4.16、札幌市。
54. 藤堂省:パネルディスカッション1劇症肝炎に対する生体肝移植の問題点、第39回日本腹部救急医学会総会、2003.4.18、弘前市。
55. 藤堂省:「北海道ドナーアクションプログラムにおける病院意識調査の結果」(ドナーアクションの勉強会)、手稲溪仁会病院、2003.4.21、札幌市。
56. 藤堂省:「北海道ドナーアクションプログラムにおける病院意識調査の結果」(ドナーアクションの勉強会)、旭川赤十字病院、2003.5.13、旭川市。
57. 藤堂省:「北海道ドナーアクションプログラムにおける病院意識調査の結果」(ドナーアクションの勉強会)、市立札幌病院、2003.5.14、札幌市。
58. 藤堂省:「北海道ドナーアクションプログラムにおける病院意識調査の結果」(ドナーアクションの勉強会)、名寄市立総合病院、2003.5.15、名寄市。
59. 藤堂省:「北海道ドナーアクションプログラムにおける病院意識調査の結果」(ドナーアクションの勉強会)、日鋼記念病院、2003.5.16、室蘭市。
60. 藤堂省:「北海道ドナーアクションプログラムにおける病院意識調査の結果」(ドナーアクションの勉強会)、帯広厚生病院、2003.5.21、帯広市。
61. 藤堂省:「北海道ドナーアクションプログラムにおける病院意識調査の結果」(ドナーアクションの勉強会)、北見赤十字病院、2003.5.22、北見市。
62. 藤堂省:第7回北海道移植フォーラム、2003.5.24、札幌市。
63. 藤堂省:特別講演13 肝移植(順天堂大学川崎誠治先生)、第103回日本外科学会定期学術集会、2003.6.6、札幌市。
64. 藤堂省:臨床研究セミナー(東京大学の高本眞一先生と一緒に)、共催 第103回日本外科学会定期学術集会、国立循環器病センター、藤沢薬品工業、2003.6.6、札幌市。
65. 藤堂省:「我が国の移植医療の課題と展望」、第24回心臓核医学研究会、2003.6.7、札幌市。
66. 藤堂省:「わが国の移植医療の現状と問題点」、第26回日本プライマリ・ケア学会、2003.6.21、札幌市。
67. 藤堂省:「肝臓と肝移植」、第4回手術侵襲セミナー、2003.6.27、富山市。
68. 藤堂省:「北海道のドナーアクションプログラム」、荒木恒敏先生教授就任祝賀会、2003.7.5、名古屋市。
69. 藤堂省:「生命の贈り物ー北海道の移植医療の現状を考えるー」、北海道保健看護専門学校、2003.7.16、札幌市。
70. 藤堂省:パネルディスカッション13 成人生体肝移植の諸問題(東京大学の幕内教授と一緒に)、第58回日本消化器外科学会総会、2003.7.18、東京都。
71. Todo S: Special lecture II, “Current problems in Organ Transplantation”, The Second International Symposium on Redox Life Science, Niseko, Hokkaido, 2003.8.21
72. 藤堂省:市民公開講座 道新シンポジウム「生命の贈り物ー北海道の移植医療を考えるー」、2003.9.5、札幌市。
73. 藤堂省:「生命の贈り物ー北海道の移植医療推進に向けてー」、中外学術講演会ー腎不全治療の現状と課題ー、2003.9.7、札幌市。
74. Todo S: VIII International Small Bowel Transplant Symposium, Miami, USA, 2003.9.11-12.
75. Todo S: Symposium 3 “HCC and LTx”, Second JSH Single Topic Conference: Progress and Future Perspective in Adult Living Donor Liver Transplantation, Shiga, Japan, 2003.10.14.
76. 藤堂省:「1 癌治療と臓器移植ー特に肝臓について」、第41回日本癌治療学会総会、2003.10.22、札幌市。
77. 藤堂省:肝移植-3、第39回日本移植学会総会、2003.10.27、大阪市。

78. 藤堂省:第2部Prograf History プログラフ肝移植
発売10周年記念フォーラム、2003.12.13、東京都。

【 野口正典 分担研究者 】

79. 峯 孝志、佐藤祐二、野口正典、笹富輝男、合原
るみ、津田尚武、田中聖子、正村裕樹、白水雄、藤
堂 省、山田 亮、山名秀明、伊東恭悟:癌ペプチドワ
クチン療法における予後判定マーカーの検討。第62回
日本癌学会総会(2003. 09. 25-27, 名古屋)

80. 山田 亮、峰 孝志、合原るみ、笹富輝男、野口正
典、津田尚武、望月一生、田中聖子、正村裕樹、佐藤
祐二、山名秀明、伊東恭悟:テラーメイドワクチン投
与患者における抗ペプチド抗体と臨床予後との相関。
第62回日本癌学会総会(2003. 09. 25-27, 名古屋)

81. 野口正典、野田進士:前立腺全摘術後の超早期
尿失禁回復ならびに早期尿道留置カテーテル抜去-恥
骨前立腺靱帯温存法。第91回日本泌尿器科学会総会
(2003. 04. 02-05, 徳島)

82. 野口正典、末金茂高、八尾昭久、片桐和子、古田
雅俊、錦織みさ、尾畑やよい、山田 亮、伊東恭悟:ホ
ルモン不応性再燃前立腺癌に対する癌ペプチドワクチ
ン療法:第I相/早期第II相臨床試験。第41回日本癌
治療学会総会(2003. 10. 22-24, 札幌)

83. 野口正典、島田明彦、矢原淳郎、末金茂高:術後
尿失禁防止ならびに術後早期カテーテル抜去可能な
前立腺全摘術の検討。第41回日本癌治療学会総会(20
03. 10. 22-24, 札幌)

84. 末金茂高、野口正典:長期術前内分泌療法を施
行したT3前立腺癌の病理組織学的結果ならびに術後
PSA再発の検討。第41回日本癌治療学会総会(2003. 1
0. 22-24, 札幌)

85. 野口正典、野田進士、松岡 啓:根治的前立腺全
摘術後のQOL:術式によるQOLへの影響。第55回日本
泌尿器科学会西日本総会(シンポジウム)(2003. 11. 13
-15, 出雲)

【 山名秀明 分担研究者 】

86. 末吉 晋、藤田博正、田中寿明、笹原弘子、的野
吾、主藤朝也、唐 宇飛、山名秀明、白水雄:食道
癌に対する総合的治療戦略-内視鏡的治療から再発
利用まで。第103回日本外科学会学術集会(2003.6.17
-19, 札幌)

87. 唐 宇飛、木戸浩一郎、白水雄、山名秀明:進
行癌患者培養自己活性化リンパ球中のCD4+CD25+T
細胞deletionによる免疫抑制解除の試み。第103回日

本外科学会学術集会(2003.6.17-19, 札幌)

88. 笹富輝男、宮城佳昭、鳥越昇二郎、佐藤裕一郎、
福光賞真、岸本幸也、的野敬子、金澤昌満、石橋生哉、
荒木靖三、緒方 裕、山名秀明、伊東恭悟、白水雄:
術後再発大腸癌に対する免疫化学療法。第103回日
本外科学会学術集会(2003.6.17-19, 札幌)

89. 佐藤裕二、前田好章、正村裕紀、高橋周作、山名
秀明、伊東恭悟、藤堂 省:高度進行スキルス胃癌に
対するPeptide Vaccine療法は有効である。第103回日
本外科学会学術集会(2003.6.17-19, 札幌)

90. 田中寿明、末吉 晋、笹原弘子、的野 吾、山名
秀明、藤田博正、白水雄:再発食道癌に対するDoce
taxel/CDDP/5-FUを用いた化学療法。第103回日本外
科学会学術集会(2003.6.17-19, 札幌)

91. 峯 孝志、山名秀明、高森信三、末吉 晋、白水
雄、伊東恭悟:高度進行肺癌に対するCTL precurso
r-orientedペプチドワクチン療法第I相臨床試験の解析。
第103回日本外科学会学術集会(2003.6.17-19, 札幌)

92. 藤井輝彦、唐 宇飛、横山吾郎、三島麻衣、小池
健太、弥永 浩、木戸浩一郎、白水雄、山名秀明:難
治性再発乳癌に対するハーセプチンと自己活性化リン
パ球の併用による免疫療法。第103回日本外科学会学
術集会(2003.6.17-19, 札幌)

93. 横山吾郎、藤井輝彦、弥永 浩、小池健太、三島
麻衣、唐 宇飛、矢原敏郎、白水雄、山名秀明:乳癌
培養細胞株SKBR-3におけるprotein kinase C(PKC)δ
と細胞周期に関する基礎的検討。第103回日本外科学
会学術集会(2003.6.17-19, 札幌)

94. 笹原弘子、末吉 晋、田中寿明、主藤朝也、的野
吾、唐 宇飛、峯 孝志、山名秀明、藤田博正、白水
雄:食道癌切除術後の再発形式の検討-特に骨転
移の増加について-。第103回日本外科学会学術集
会(2003.6.17-19, 札幌)

95. 小池健太、藤井輝彦、横山吾郎、三島麻衣、弥永
浩、矢原敏郎、唐 宇飛、白水雄、山名秀明:甲状
腺乳頭癌細胞株NPAにおける細胞内シグナル伝達機
構と細胞周期に関する基礎的検討。第103回日本外科
学会学術集会(2003.6.17-19, 札幌)

96. 的野 吾、末吉 晋、田中寿明、笹原弘子、唐 宇
飛、峯 孝志、主藤朝也、山名秀明、藤田博正、白水
雄:食道癌術後他癌死の検討。第103回日本外科学
会学術集会(2003.6.17-19, 札幌)